



病診連携通信

第13号

公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂綜合病院
平成28年8月

形成外科における褥瘡の治療について

形成外科では皮膚に関わる腫瘍、先天異常、褥瘡/難治性潰瘍等の治療をおこなっています。近年、高齢化が進行しており、褥瘡の発生やその増悪が重要な医療問題となってきています。

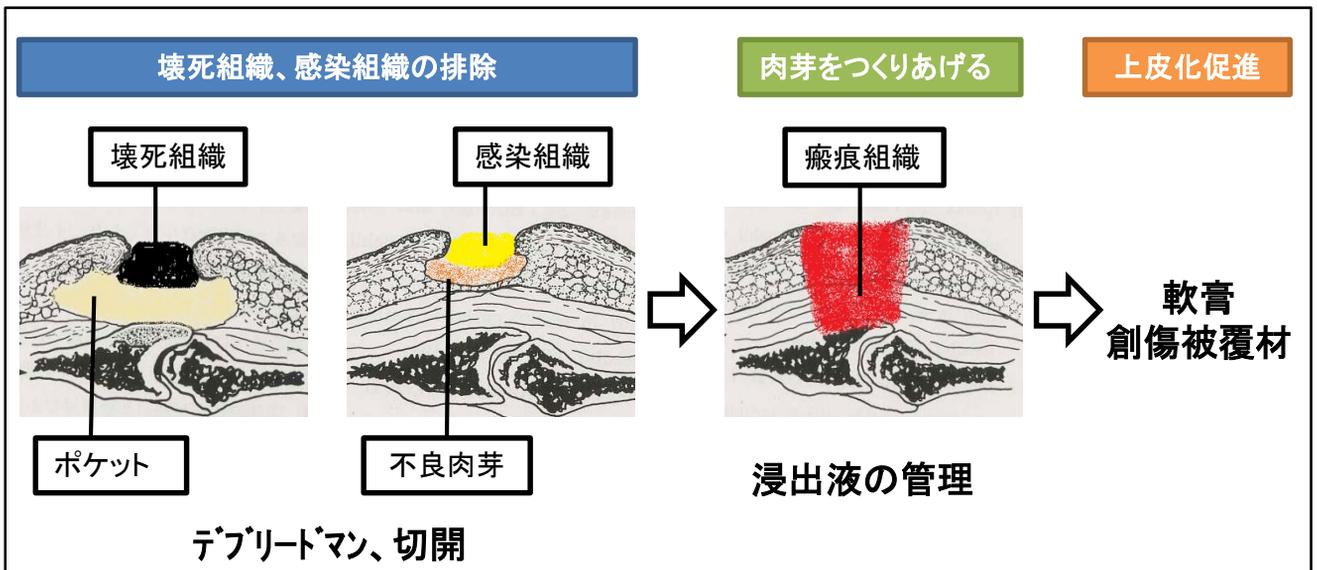
褥瘡の基本病態は阻血性病変です。そのため、基本的な治療/予防は除圧ですが、一度発生すると、治療に難渋する症例が多くみられます。その原因として患者自身の要因もありますが、壊死組織の排除のタイミングや感染兆候の判断、浸出液の管理、さらには褥瘡特有であるポケットの処置等、医療側の対応も少なからず影響します。また、創傷治療の分野で Wound bed preparation が広まり、多数出回っている創傷被覆材の選択に悩むことも多くなっています。さらに、褥瘡は慢性創傷であるため、適切な治療にも関わらず、よい肉芽が出現するまで時間がかかることもあり、治療法に不安を感じる場合も少なくありません。

下記に治療の模式図(一例)を示します。褥瘡の治療には多面的なアプローチが必要であり、医師、看護師、栄養師、リハビリスタッフ、介護福祉士等、多職種の間わりが必要です。

褥瘡に関してお困りの患者さんがおられましたら、お気軽にご相談・ご紹介ください。

(形成外科:古川杏奈)

治療の模式図



(殿部・会陰部の再建と褥瘡の治療 最近の進歩 一部改訂)

寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または
☎024-932-6363 (代表) にお問い合わせください。